

組織目標評価報告書 (2019年度)

部局名: **大学院医歯薬学総合研究科 医学系** 部局長名: **大塚 愛二**

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p>教育の質保証に際しては、グローバル化、リカレント教育に対応した種々の施策を包含・立案し推進を目指す。特に、「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」と「医療教育センター」の一体的運用ならびに医療人の生涯学習のためのリカレント教育プログラムの拡充を行う。</p> <p>①医療教育センターを効率的に運用し、職種横断型教育目標達成のための基盤とする。 ②「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」が中心となり、医療系が一体となった大学院生の海外派遣ならびに留学生・短期研修生の受け入れを促進する。 ③修士課程では公衆衛生(MPH)コースの受け入れ、博士課程では医療系社会人学生を対象とした国際化プログラムやリカレント教育プログラムの拡充を行う。</p>	<p><b>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b></p> <p>①医療教育センターでは、職種横断型教育の基盤を確固たるものとするため、センター教職員ミーティングを毎週実施し、各系の教育の問題点を情報共有するとともに課題の解決を図った。模擬患者育成事業に寄与してきたNPO岡山SP研究会に教育貢献特別賞を贈り謝意を表するとともに、模擬患者の更なる充実を図った。</p> <p>②医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議を中心として、医療系部局が連携して大学院生の受け入れ派遣について促進を図った。</p> <p>③修士課程医歯薬学専攻において、MPHコースの入学生受け入れ促進を図り、3名の入学生を獲得した。博士課程で、医療系社会人学生を対象とした国際化プログラムとして国際学会での発表を単位認定するなど、グローバルな活動を活性化させるプログラムの開発に努めた。また、海外からの博士大学院生が自国の学士教育に参加する履修互方式プログラムを開発し、それを単位化して拡充に努めた。</p> <p>研究科の教育に関する内部質保障のための体制を整え、手順について点検整備した。その上で教育外部評価を実施し、内部質保障のPDCAサイクルが有効に機能するように図った。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p>研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための種々の施策を策定する。</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況</p> <p>①認定された医療法上の「臨床研究中核病院」としての活動を病院と緊密に連携しながら推進する。</p> <p>②認定された第3期橋渡し事業「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の3年目として事業の推進を加速しつつ拠点としての自立化対応を引き続き強化させる。学外シーズの発掘・支援をより積極的に進める。</p> <p>③認定された「がんゲノム医療中核拠点病院」としての活動を病院並びに上記①②のプログラムと一体化して推進する。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <p>①外部研究資金等の獲得の推進: 各種競争的資金の獲得支援を病院と一体となり実施する。</p> <p>②産学官連携活動の推進: 研究推進産学官連携機構医療系本部の活動強化。</p> <p>上記の取り組みを有機的かつ効率的に実施するため、またグローバル化に対応するために医療系等研究開発戦略委員会は、「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」と「医療教育センター」と融合的に活動する。</p>	<p><b>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b></p> <p>1. ①②③ 岡山大学病院の医療法上の臨床研究中核病院としての活動、第3期橋渡し研究戦略的推進プログラム、がんゲノム医療中核拠点病院としての活動について、病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センター、および研究推進課と連携しつつ、一体的に推進を図った。橋渡し研究戦略的推進プログラムにおいて、中四国を中心に学内外から応募のあったシーズA 97件、シーズB・preB 17件、シーズC・preC 5件を審査し、シーズA 38件(学内シーズは13件、うち医学系10件)を採択、シーズB・preB 9件、シーズC・preC 4件を岡大拠点シーズとしてAMEDに応募、ヒアリング等の支援を実施した。結果、シーズpreCが1件採択された。</p> <p>2. ①②各種競争的資金の獲得について、本研究科と病院とで一体となって推進を図った。科研費の応募申請書の添削指導を行うとともに、申請書の書き方の講習会を実施した。</p> <p>その他に、異分野の研究者が互いの研究情報とアイデアを語る会として、プレインストーミングを実施した。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p>以下の社会貢献領域としての目標を設定する。</p> <p>①国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的かつ主体的参画: ミヤンマー医療人材育成支援のためのプログラムに積極的に参加する。</p> <p>②CMA-Okayama構想実現に向け活動を病院と連携しながら推進する。</p>	<p><b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b></p> <p>①ミヤンマー医療人材育成支援のため、学部・病院と一体となって参画した。受入が、学生学部 20人(短期受入のみ:基礎病態演習 12人およびMRI 8人)、大学院 1人(博士課程正規生); 教職員(外国人客員研究員として)4人; その他 12人(医歯薬・医学部)短期研修生4名、身分なし4名、(病院)外国人長期研修生4名、派遣が、教職員18人であった。</p> <p>②CMA-Okayama構想実現に向けた取り組みとして、臨床研究専門部会(治験ネットワーク)の運営を開始した。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p>上記、教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向けた</p> <p>①部局運営体制の強化・活性化を推進する。特に、各学系との横の連携を深化・進化させるため従来の会議体においてPDCAサイクルを用いた目標の行程管理を行う。</p> <p>②効率的・戦略的な予算配分・執行のため、各講座単位での具体的な課題、問題点を把握する。</p> <p>③安全衛生に対する配慮のため、職場巡視、ストレスチェック等を推進するとともに啓発活動を行う。</p> <p>④施設整備の推進について、関連事務局との連携を行い中長期的なプラン策定のための調査を行う。特に、教育研究スペースの不足、狭隘化に対しての調査と対応を行う。</p> <p>⑤法令遵守の徹底について、種々のコンプライアンス関連の講習会等を計画的に実施する。</p> <p>⑥保健学研究科との統合に関する議論を加速し一定の方向性・コンセンサスを得る。</p>	<p><b>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b></p> <p>拡大部局長会議、研究科運営会議を通じて、各学系との横の連携を深化・進化させるよう、情報の共有を図った。</p> <p>安全衛生に対する配慮のため、定期的な職場巡視、ストレスチェック、メンタルヘルス相談状況、作業環境測定、健康診断受診を組織的に取り組んだ。長時間労働のチェックを行い、指導と調整を行った。</p> <p>基礎医学棟使用停止の計画に対応するため、スペース配分の再評価を行ったが、基礎医学棟を耐震改修することとなり、再評価配置プランの実行には至らなかった。学外契約駐車場の突然の契約打ち切りに対応するため、運動場の臨時駐車場をさらに継続するにあたり、関係部署との調整を図るとともに、サークル代表学生への理解と協力に努めた。歯学部棟改修に対応するため、改修期間中の逃げ地対応プランを検討した。</p> <p>法令遵守と種々コンプライアンス関連の講習会を計画的に実施し、積極的な参加を促した。</p>